

都市再生整備計画 事後評価シート  
須賀川駅西地区

令和6年2月

福島県須賀川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	須賀川市		地区名	須賀川駅西地区			面積	30.0ha		
交付期間	令和元年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	1251.95百万円	国費率	50%				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	【道路】新設道路(市道1171号線)、新設道路(市道1171号線)、新設道路(市道1111号線)、新設道路(市道1112号線)、既存拡幅道路(市道1105号線)/【公園】街区公園の整備 【地域生活基盤施設】自由連絡通路の整備、駅前広場の整備/【既存建造物活用事業】観光交流センターの整備									
			提案事業										
			【まちづくり活動推進事業】駅前SIM CITY事業、駅周辺の稼ぐ力の創出/【事業活用調査】効果・分析調査										
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	【地域生活基盤施設】駅西駐車場の整備 【高質空間形成施設】歩行支援設備の整備(エレベーター・エスカレーター)			民間事業者の参入が見込まれることから事業とリやめ 第2期計画で実施するため			影響なし 影響なし			
		提案事業	【まちづくり活動推進事業】国指定史跡上人壇庵寺跡を活用した新たな観光資源の発信と賑わいの創出			第2期計画で実施するため			影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業			【道路】新設道路(市道1113号線) 【公園】近隣公園の整備 【既存建造物活用事業】地域交流センターの整備			計画の見直しを行い事業を追加 計画の見直しを行い事業を追加 計画の見直しを行い事業を追加			影響なし 指標に避難するための時間(目標値80分)を追加 影響なし		
		提案事業			【地域創造支援事業】防災意識向上のため、防災訓練の実施やパンフレットの作成			計画の見直しを行い事業を追加			指標に防災訓練の回数(目標値2回)を追加		
交付期間の変更		当初	令和元年度～令和5年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期		
	指標1	地区内人口	人	618	H29	680	R5	712	693	○	あり なし	道路の整備や、東西自由連絡通路整備等への期待感から効果が発現している。	
	指標2	地域活動団体の年間イベントの開催数	回/年	0	H29	4	R5	4	5	○	あり なし	まちづくり団体(須賀川駅前有志の会等)が、開催場所等を工夫しながら積極的にイベントを開催していることから、従前値より実績値が上がっている。	
	指標3	地区内に立地する店舗数	件	7	H29	10	R5	8	10	○	あり なし	道路の整備が進んでいることや、本事業が周知されたことによる期待感の高まりから、効果が発現している。	
	指標4	避難するための時間	分	0	R1	80	R5	0	80	○	あり なし	西川中央公園内の雨水貯留施設の整備が完了し、内水氾濫の発生から被害発生までに避難するための時間を確保することができるようになった。	
指標5	防災訓練の回数	回/年	0	R1	2	R5	0	2	○	あり なし	住民向けの説明及びチラシ配布を防災訓練の一環として実施し、防止意識の向上を図ることができた。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況													

		実施内容	実施状況	今後の対応方針等	
5) 実施過程の評価	モニタリング	・事業効果分析事業として、効果発現要因分析等を実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	・モニタリングの実施結果をもとに、計画の見直しを行った。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	官民連携による取組	・高校生や大学生とのワークショップの開催。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	・今後も必要に応じてワークショップを実施し、市民の参加と愛着の醸成を高めるよう展開していく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	・須賀川駅前有志の会が年に数回イベントを開催。 ・歴史的資源を発信するため文化団体と連携。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	・官民が連携し、継続的な活動ができる体制を維持していく。 ・庁内の文化・歴史を担当する部署と連携し、持続的な活動ができる体制を整える。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

## 様式2-2 地区の概要

### 須賀川駅西地区(福島県須賀川市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:「人が集い、歴史と共存するにぎわいと魅力ある駅前空間の創出」 目標 地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信 目標 地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造 目標 安全安心で快適に生活できる住環境の整備	地区内人口	単位:人	618	H29	680	R5	693	R5
	地域活動団体の年間イベント開催数	単位:回/年	0	H29	4	R5	5	R5
	地区内に立地する店舗数	単位:件	7	H29	10	R5	10	R5
	避難するための時間	単位:分	0	R1	80	R5	80	R5
	防災訓練の回数	単位:回/年	0	R1	2	R5	2	R5



まちの課題の変化

- ・交流人口の増加を目指し、上人壇庵寺跡へのアクセス利便性をさらに高め、他にはない特色ある地域資源として魅力の発信を行うことが必要である
- ・地区内の道路が整備され狭小で危険な道路が減少したことや自由連絡通路整備への期待感から地区内人口や商業店舗が増加したが、西側のロータリーや一部道路が未整備であり、さらに地区内の道路ネットワークの形成を進め、回遊性をより高める必要がある。
- ・効果的に観光情報を発信するため、観光案内所と待合・コミュニティのスペースを明確化する必要がある。
- ・鉄道利用者だけでなく、誰もが利用しやすいコミュニティスペースを設けることで、市内外の交流を促す必要がある。
- ・JR東日本の軌道敷を境に分断された東西の地域交流を活性化するため、東西が一体となったまちづくりを目指す必要がある。
- ・東口駅前広場の混雑による事故の発生が懸念されることから、安全安心で利便性の高い駅前空間を目指す必要がある。
- ・西川中央公園内の雨水貯留施設の整備が完了し、内水氾濫の発生の際に避難するための時間を確保することができるようになった。

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)	<p>【地域の防災力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主防災組織の活動を支援し、定期的な防災訓練の実施を促すことで、地域住民の防災・減災への意識を高める。</li><li>・整備した公園が防災訓練等で活用されるよう促すとともに、適切な維持管理を行う。</li></ul> <p>【東西交流の促進と地域の資源の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・駅前周辺の整備を進め、上人壇廃寺跡へのアクセスの利便性をさらに高めるとともに、文化団体と連携した魅力の発信を行う。</li><li>・東西自由連絡通路を整備することで、住民の交流を促し東西が一体となったまちづくり活動を支援する。</li></ul> <p>【にぎわいと魅力にあふれた、次世代に継承できる持続可能なまちの創造】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・観光交流センターを整備することで、地域の資源や観光情報等を効果的に情報発信し、交流人口の増加を図る。</li><li>・誰もが利用しやすい地域交流センターを整備することで、地域活動と交流を促進し、持続可能なにぎわいを創出する。</li><li>・駅前周辺の整備を進め、交通結節点としての機能を強化する。さらに、新しい生活様式に対応した、居心地の良い人が集う駅前広場を整備することにより、魅力の向上につなげる。</li></ul> <p>【利便性が向上し、さらに安全安心で快適な住環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・狭小で危険な道路を減らし、安全安心で快適な住環境を整備する。</li><li>・ロータリー及び駅前広場の整備により、交通渋滞の緩和を促し、駅利用者の利便性向上と安全性向上を図る。</li></ul>
-----------------------------	--

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

## (1) 成果の評価

### 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		地区内の定住人口、年間イベント開催数、店舗数を指標とした。	変更前に加え、内水氾濫の発生から被害発生までに避難するための時間、防災訓練の回数を指標に追加した。	令和元年度に発生した台風19号を受け、計画範囲を広げ、雨水貯留施設の整備、防災に関する事業を追加したため。
C. 目標値	●		地区内に立地する店舗数の目標値は15店舗とした。	地区内に立地する店舗数の目標値を10店舗とした。	立地適正化計画(令和元年度策定)の居住誘導区域に合わせて、計画範囲を変更したため。
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	新設道路(市道1171号線)	114.00	L=200m	15.99	L=101m	実績に伴う事業費減	影響なし	●	
	新設道路(市道1171号線)	19.20	L=60m	16.27	L=41m	実績に伴う事業費減	影響なし	●	
	新設道路(市道1111号線)	21.00	L=60m	30.26	L=64m	実績に伴う事業費増	影響なし	●	
	新設道路(市道1112号線)	19.20	L=60m	12.58	L=31m	用地協力が得られず道路延長の見直しを行った	影響なし	●	
	既存拡幅道路(市道1105号線)	63.70	L=210m	52.47	L=177m	実績に伴う事業費減	影響なし	●	
	新設道路(市道1113号線)			13.29	L=115m	計画の見直しを行い事業を追加	影響なし	●	
公園	街区公園の整備	53.50	A=900m <sup>2</sup>	45.49	A=500m <sup>2</sup>	計画の見直しを行い整備面積及び工事費減	影響なし	●	
	近隣公園の整備			605.03	A=25,000m <sup>2</sup>	雨水貯留施設整備のため追加	指標に避難するための時間(目標値80分)を追加	●	
地域生活基盤施設	自由連絡通路の整備	1,533.00	L=50m,A=600m <sup>2</sup>	148.64	L=50m,A=600m <sup>2</sup>	第2期計画で整備することから事業費減	影響なし	●	
	駅前広場の整備	278.00	4,000m <sup>2</sup>	229.80	9,000m <sup>2</sup>	関連事業との調整により広場面積増。整備を第2期計画で実施することから事業費減。	影響なし	●	
	駅西駐車場の整備	52.80	A=1,200m <sup>2</sup> , 31台			民間事業者の参入が見込まれることから事業とりやめ	影響なし		
高質空間形成施設	歩行支援施設の整備(エレベーター・エスカレーター)	400.00	エレベーター2基 エスカレーター2基			第2期計画で整備をするため第1期での事業は取りやめ	影響なし		
既存建造物活用事業	観光交流センターの整備	393.20	520m <sup>2</sup>	39.75	361.7m <sup>2</sup>	計画の見直しを行い面積按分、第2期計画で整備するため事業費減	影響なし	●	
	地域交流センターの整備			24.93	226.8m <sup>2</sup>	計画の見直しを行い事業を追加	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	防災意識向上のため、防災訓練の 実施やパンフレットの作成			0.30	啓発用チラシの印刷	計画の見直しを行い事業を追加	指標に防災訓練の回数(目標値2回)を追加	●	
事業活用調査	効果・分析調査	4.00	都市再生整備計画 の事後評価	10.34	都市再生整備計画 の中間評価(モニタ リング)及び事後評 価	計画の見直しを行い事業費増	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	駅前SIM CITY事業、駅周辺の稼ぐ力 の創出	8.00	若者によるまちづく りのためのワーク ショップ及びにぎわ い創出事業	6.81	若者によるまちづく りのためのワーク ショップ及びにぎわ い創出事業	計画の見直しを行い事業費減	影響なし	●	
	国指定史跡上人壇廃寺跡を活用し た新たな観光資源の発信と賑わいの 創出	3.00	文化団体と連携した ボランティアガイド育 成			第2期計画で実施するため、1期で はとりやめ	影響なし		

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
東西幹線道路整備事業		東西幹線道路(市道1104号線)	507.00	507.00	H29～R5	H29～R8	駅西地区都市再生整備計画 の進捗に合わせた工程として いる	
駅橋上化整備		自由連絡通路と併設	1,200.00	1,200.00	H30～R5	H30～R8	駅西地区都市再生整備計画 の進捗に合わせた工程として いる	
先行取得用地の利活用(店舗誘致等)			50.00	—	H30～R5			
上人壇廃寺跡史跡公園整備事業		上人壇廃寺跡(国指定史跡)	256.80	—	H28～R5			

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	R3	数値	モニタリング	○	あり	なし	
指標1	地区内人口	人	計画地区内の定住人口	-	-	618	H29	680	R5	モニタリング	R3	712	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み	693	事後評価	○		
指標2	地域活動団体の年間イベント開催数	回/年	地域活動団体の年間イベント開催数	-	-	0	H29	4	R5	モニタリング	R3	4	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み	5	事後評価	○		
指標3	地区内に立地する店舗数	件	地区内に立地する店舗数	7	H20	7	H29	10	R5	モニタリング	R3	8	モニタリング	△		
										事後評価	確定見込み	10	事後評価	○		
指標4	避難するための時間	分	内水氾濫の発生から被害発生までの避難時間	0	H20	0	R1	80	R5	モニタリング	R3	0	モニタリング	×		
										事後評価	確定見込み	80	事後評価	○		
指標5	防災訓練の回数	回/年	防災訓練の回数	0	H20	0	R1	2	R5	モニタリング	R3	0	モニタリング	×		
										事後評価	確定見込み	2	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	道路の整備や、東西自由連絡通路整備等への期待感から地区内人口が増え、目標を達成することができた。	対象区域内の人口は、事業前から市全体人口と同様の減少傾向であると考えられ、事業の効果により令和1～2年頃に人口増加したものの、その後の中間評価から事後評価時にかけては、市全体と同様の減少傾向となった。なお、世帯数はほぼ同数であることから、対象区域内の住宅戸数は維持されているものと考えられる。
指標2	まちづくり団体(須賀川有志の会等)が、開催場所等を工夫しながら積極的にイベントを開催していることから、目標を達成することができた。	
指標3	道路の整備が進んでいることや、本事業が周知されたことによる期待感の高まりから、店舗数が増え、目標を達成することができた。	
指標4	西川中央公園内の雨水貯留施設の整備が完了し、内水氾濫の発生から被害発生までに避難するための時間を確保することができたことから、目標達成とした。	
指標5	住民向けの説明及びチラシ配布を防災訓練の一環として実施し、目標を達成することができた。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業効果分析事業として、効果発現要因分析等を実施	予定どおり実施した	●【実施頻度】1回 【実施時期】令和3年度 【実施結果】目標値の見直し等、計画変更に向けた対応の検討。	モニタリングの実施結果をもとに、計画の見直しを行った。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
高校生や大学生とワークショップの開催	予定どおり実施した	●【実施頻度】年1回以上 【実施時期】令和元年度～4年度 【実施結果】当該地区の在り方に関する市民意見を把握し、事業実施のための基礎資料とした。	今後も必要に応じてワークショップを実施し、市民の参加と愛着の醸成を高めるよう展開していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要		
須賀川駅周辺にて年に数回のイベントを開催	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した ●</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	●	<p>須賀川駅前有志の会が須賀川まちづくり推進協議会北部地区整備推進プロジェクト委員会等の協力を受け、イベントを年に数回に開催している。その中の2イベントは今後の開催も期待できる。</p>	<p>〈須賀川駅前有志の会〉 にぎわい創出のためのイベント開催を通じて、須賀川駅周辺の認知度向上や駅前空間の新たな使い方を市内外に発信するため、平成30年度に地元有志が集い発足した組織。駅周辺の歴史を振り返る写真展や駅前道路を通行止めにしたアートイベントなどを定期的に開催。 高校生などの若者を巻き込みながら各種活動を展開し、持続的なまちづくりのため次世代の担い手育成にも注力している。</p>	<p>官民が連携し、継続的な活動ができる体制を維持していく。</p>
歴史的資源を発信するため文化団体と連携	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した ●</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	●	<p>上人壇廃寺跡での学校活動(校外学習)でのサポート。</p>	<p>〈須賀川知る古会〉 須賀川の歴史、建築物、人などの交流を通してまちへの関心や愛着心を深め、地域の歴史文化の継承とまちが活性化することを目的に活動。</p> <p>〈ふるさとガイドの会〉 牡丹園内をはじめとした市内の地域資源を通して「須賀川のすばらしさ」を観光客や市民へ案内することを目的に活動。</p> <p>〈須賀川史談会〉 郷土の文化・芸術及び史跡・名勝等の文化財の研究を行い、文化財の保存活用・啓もう活動等を通して須賀川の文化振興に寄与する団体。県内外での研修や研究発表会、文化財等への標柱設置等を行っている。</p>	<p>庁内の文化・歴史を担当する部署と連携し、持続的な活動ができる体制を整える。</p>

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価 庁内委員会	企画政策課、市民安全課、文化振興課、観光交流課、商工課、道路河川課、下水道施設課	令和5年12月8日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4		指標5	
指標名		地区内人口		地域活動団体の年間イベント開催数		地区内に立地する店舗数		避難するための時間		防災訓練の回数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】新設道路(市道1171号線)	○	道路の整備や、東西自由連絡通路整備等への期待感から効果が発現している。	-	まちづくり団体(須賀川駅前有志の会等)が、開催場所等を工夫しながら積極的にイベントを開催している。また、これらのイベントは地元自治会等でも共催しており、地域が一体となった取り組みができた。	○	道路の整備が進んでいることや、本事業が周知されたことによる期待感の高まりから、効果が発現している。	-	西川中央公園内の雨水貯留施設の整備が完了し、内水氾濫の発生から被害発生までの時間を確保することができるようになった。	-	新型コロナウイルス感染状況の影響を踏まえ、住民向けの説明及びチラシ配布を防災訓練の一環として実施し、防災意識の向上を図ることができた。
	【道路】新設道路(市道1171号線)	○		-		○		-			
	【道路】新設道路(市道1111号線)	◎		-		○		-			
	【道路】新設道路(市道1112号線)	◎		-		◎		-			
	【道路】既存拡幅道路(市道1105号線)	◎		○		◎		-			
	【道路】新設道路(市道1113号線)	◎		○		○		-			
	【公園】街区公園の整備	◎		○		-		◎		-	
	【公園】近隣公園の整備	-		-		-		-		-	
	【地域生活基盤施設】自由連絡通路の整備	◎		○		○		-		-	
	【地域生活基盤施設】駅前広場の整備	◎		○		○		-		-	
	【既存建造物活用事業】観光交流センターの整備	-		○		○		-		-	
	【既存建造物活用事業】地域交流センターの整備	-		○		○		-		-	
提案事業	【まちづくり活動推進事業】駅西地区	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-
	【地域創造支援事業】西川中央公園	-	-	-	-	◎	-	◎	-	◎	-
関連事業	上人壇廃寺跡地史跡公園事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	先行取得用地の利活用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東西幹線道路の整備	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-

※指標改善への貢献度

◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確

今後の活用	2期整備により、さらに人口増加を促し、事後評価結果の維持を目指す。	2期整備により、駅前空間を活用したイベントの開催を促し、事後評価結果の維持を目指す。	地区内の魅力向上を図り、新規開業を促進し、事後評価結果の維持を目指す。	災害発生時には時間内に避難が完了できるように、近隣住民へ周知し適切な避難行動につなげる。	自主的な防災訓練が実施されるよう支援する。
-------	-----------------------------------	--	-------------------------------------	--	-----------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名			目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--



#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価 庁内委員会	企画政策課、市民安全課、文化振興課、 観光交流課、商工課、道路河川課、 下水道施設課	令和5年12月8日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①上人壇麁寺跡へのアクセス 向上とその魅力の活用		交流人口の増加を目指し、上人壇麁寺跡へのアクセス利便性をさらに高め、他にはない特色ある地域資源として魅力の発信を行うことが必要である。	<p>⑧東西自由連絡通路の整備への期待から、駅西広場への駐輪場の設置要望があった。</p> <p>⑨高校生や大学生とのワークショップでは、新しい生活様式に合った広いイベントスペースの必要性が指摘された。</p>
②観光案内所の構造的な制約の改善と観光情報の効果的なPR		効果的に観光情報を発信するため、観光案内所と待合・コミュニティのスペースを明確化する必要がある。	
③鉄道利用者の待合としてのみ利用されているコミュニティスペースの有効活用		鉄道利用者だけでなく、誰もが利用しやすいコミュニティスペースを設けることで、市内外の交流を促す必要がある。	
④狭小で危険な道路の改善と商業店舗の立地	道路が整備され、狭小で危険な道路が減少した。また、整備への期待感から商業店舗が増加した。	一部未整備となっている駅西側の道路整備を進め、地区内の道路ネットワーク形成を図ることで、より回遊性、アクセス性を高め、商業店舗にとって好立地な駅前空間を創出する必要がある。	
⑤東西の地域交流の希薄化改善		JR東日本の軌道敷を境に分断された東西の地域交流を活性化するため、東西が一体となったまちづくりを目指す必要がある。	
⑥駅前広場、付近の道路や街区公園等のインフラ環境の整備	付近の道路や街区公園の整備により、住環境が向上した。	駅西口が整備されておらず、駅東口に送迎車両等が集中することで、交通渋滞によるバスの発着遅延や周辺道路での事故発生が懸念されているため、駅西口の整備を行うことにより、安全安心で利便性の高い駅前空間を目指す必要がある。	
⑦河川の越水や内水氾濫等に対する早期の防災・減災対策	西川中央公園内の雨水貯留施設の整備が完了し、内水氾濫の発生の際は避難するための時間を確保することができるようになった。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり  
方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を  
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地域の防災力向上 (課題⑦関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織の活動を支援し、定期的な防災訓練の実施を促すことで、地域住民の防災・減災への意識を高める。</li> <li>・整備した公園が防災訓練等で活用されるよう促すとともに、適切な維持管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園等の積極的な活用</li> <li>・町内会との維持管理協定の締結</li> </ul>

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未達成の目標を達成するための改善策</li> <li>・未解決の課題を解消するための改善策</li> <li>・新たに発生した課題に対する改善策</li> </ul>	東西交流の促進と地域の資源の魅力発信 (課題①関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前周辺の整備を進め、上人壇麁寺跡へのアクセスの利便性をさらに高めるとともに、文化団体と連携した魅力の発信を行う。</li> <li>・東西自由連絡通路を整備することで、住民の交流を促し東西が一体となったまちづくり活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設道路(市道1171号線)の整備</li> <li>・新設道路(市道1113号線)の整備</li> <li>・駅前広場の整備</li> <li>・東西自由連絡通路の整備</li> <li>・観光交流センターの整備</li> <li>・地域交流センターの整備 他</li> </ul>
	にぎわいと魅力にあふれた、次世代に継承できる持続可能なまちの創造 (課題②③④⑨関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センターを整備することで、地域の資源や観光情報等を効果的に情報発信し、交流人口の増加を図る。</li> <li>・誰もが利用しやすい地域交流センターを整備することで、地域活動と交流を促進し、持続可能なにぎわいを創出する。</li> <li>・駅前周辺の整備を進め、交通結節点としての機能を強化する。さらに、新しい生活様式に対応した、居心地の良く人が集う駅前広場を整備することにより、魅力の向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西自由連絡通路の整備</li> <li>・駅前広場の整備</li> <li>・観光交流センターの整備</li> <li>・地域交流センターの整備 他</li> </ul>
	利便性が向上し、さらに安全安心で快適な住環境の整備 (課題⑤⑥⑧関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭小で危険な道路を減らし、安全安心で快適な住環境を整備する。</li> <li>・ロータリー及び駅前広場等の整備により、駅周辺の混雑の緩和を促し、駅利用者の利便性向上と安全性向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設道路(市道1171号線)の整備</li> <li>・新設道路(市道1113号線)の整備</li> <li>・東西自由連絡通路の整備</li> <li>・駅前広場の整備 他</li> </ul>

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地区内人口	人	618	H29	680	R5	確定 ● 見込み	693	○	あり なし	→		
指標2	地域活動団体の年間イベント開催数	回/年	0	H29	4	R5	確定 ● 見込み	5	○	あり なし	→		
指標3	地区内に立地する店舗数	件	7	H29	10	R5	確定 ● 見込み	10	○	あり なし	→		
指標4	避難するための時間	分	0	R1	80	R5	確定 ● 見込み	80	○	あり なし	→		
指標5	防災訓練の回数	回/年	0	R1	2	R5	確定 ● 見込み	0	○	あり なし	→		
その他の数値指標1				H			確定 見込み				→		
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→		
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→		

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	モニタリングの実施は、交付期間途中の効果発現状況等を把握でき、第2期計画以降の策定の参考となることから今後も実施することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	地区内人口や店舗数は、完了していない事業がある中、数値目標を達成した。道路整備や東西自由連絡通路への期待感を反映させることができ、事業の効果を示すことができた。	都市再生整備計画の作成時は、モニタリングや事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	計画範囲を字界としなかったため、指標(人口)の計測方法が複雑になり、集計に時間を要することとなった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ワークショップを実施したことにより、計画に住民意向を反映することができた。	ワークショップ等を開催することで、計画の認知度向上や、より地域に密着した意見を聴取することができるため、計画策定前・遂行中に関わらず、開かれた場を用意することは効果的である。
	うまくいかなかった点	新型コロナウイルスの影響で予定していた回数のワークショップを実施することができなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	地区内人口、イベント開催数、店舗数は、計測を続ける事で効果の検証に用いることが可能である。	計測を引き続き行っていくことは、PDCAサイクルの考え方にとって非常に有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定  
須賀川駅西地区都市再生整備計画(第2期)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和6年1月5日～1月19日	令和6年1月5日～1月19日	担当課へ持参、郵送、ファックス、メールによる受付	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市計画課窓口で閲覧	令和6年1月5日～1月19日	令和6年1月5日～1月19日		

住民の意見	<p>市民から、1件の意見(要望)をいただきました。個別の回答はしていないため、掲載により代えさせていただきます。(意見は要約しております)</p> <p>&lt;東西自由連絡通路の自転車通行に関して&gt;  東西自由連絡通路ができることで、歩行者は駅東側から駅西側へのアクセスが容易となるが、自転車を利用する場合は国道4号まで迂回しなければならないため、自転車も通れるような地下道や自転車で渡れる陸橋を整備してほしい。  →東西自由連絡通路は、手押しでの通行に限り、自転車も通行できることとしております。引き続き、情報発信に努めて参ります。</p>
-------	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	■川崎 興太 (福島大学共生システム理工学類 教授)	令和6年1月29日	都市計画課	須賀川市都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	須賀川市
その他の委員	■市川 守(新栄町町内会 会長) ■服部 起代子(新栄町町内会 理事) ■安田 喜好(須賀川商工会議所 副会頭) ■深谷 勝俊(須賀川まちづくり推進協議会北部地区整備推進プロジェクト委員会 委員長) ■鈴木 崇宏(須賀川駅前有志の会)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・特になし
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・イベント開催数は、新規に開催したイベントのみをカウントしたため、従前から地元町内会が実施しているイベントは含めていない。しかし、地元町内会ではイベントの共催を行うなどの活動を行っており協力体制にあることから、その点を考慮した記載にしてほしいという意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・駅西広場、上人壇廃寺跡が連携することによる相乗効果に期待する意見があった。 ・東西が一体となったまちづくり活動を推進していくため、町内会への参加を促していきたいという意見があった。 ・西川中央公園の整備後は自主防災組織と連携した活動を実施し、住民の防災意識を高める必要があるという意見があった。 ・令和6年3月からの福島空港と台湾を結ぶ定期便就航に向け、観光交流センターを活用した情報発信に期待する意見があった。
	フォローアップ	-
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---



# 都市再生整備計画(第2回変更)

すかがわえきにし  
須賀川駅西 地区

ふくしま すかがわ  
福島県 須賀川市

令和6年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	フクシマケン 福島県	市町村名	スカガワ シ 須賀川市	地区名	スカガワエキニシ チク 須賀川駅西 地区	面積	30.0	ha
-------	---------------	------	----------------	-----	-------------------------	----	------	----

計画期間	令和 元 年度 ～ 令和 5 年度	交付期間	令和 元 年度 ～ 令和 5 年度
------	-------------------	------	-------------------

### 目標

- 大目標:「人が集い、歴史と共存するにぎわいと魅力ある駅前空間の創出」
- 目標 地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信
- 目標 地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造
- 目標 安全安心で快適に生活できる住環境の整備

### 目次

#### 令和3年4月

#### 都市全体の再編方針

- 本市では、2009(平成21)年10月に「須賀川市都市計画マスタープラン」を策定し、新たに生じた施策や計画等に対応するため、必要な見直しを行い、企業用地の確保や安全・安心で快適な住環境など将来を見据えた合理的で調和のとれた土地利用に取り組んできた。
- 現在、本市においても、人口減少社会の到来や少子高齢化が深刻で、中心市街地は空洞化が進んでおり、行政サービスや病院、商業施設、公共交通などの日常的に必要なサービスの提供が困難になりかねない状況である。
- 本市は都市計画の中で、健康で快適な生活環境を実現することや財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが課題となっており、これらを解決するために、コンパクトなまちづくりが求められている。
- 本市においても、2019(令和元年)6月に「須賀川市立地適正化計画」を作成し、須賀川市の市街化区域を対象として目指すべき姿を具体的に検討し、持続可能な都市構造への転換を図るとともに、震災復興や中心市街地活性化、公共施設再編と合わせた集落化・複合化・多機能化等の各種取組との整合を図り、居住機能や都市機能の誘導を効率的に進めていく計画である。
- また、令和元年度台風19号では、本市の都市機能誘導区域においても甚大な被害が発生しており、今後も頻発・激甚化する自然災害に対応するため、防災・減災対策を講じることにより、安全安心な住環境整備を促進する。

#### まちづくりの経緯及び現況

- 須賀川市は、福島県中通り地域に位置しており、鎌倉時代以降は城下町として、天正年間以降は奥州街道屈指の宿場町として、阿武隈川や釈迦堂川と共に発展してきた。現在においても市の中心を国道4号が縦断し、東北縦貫自動車道須賀川インターチェンジを有するなど自動車交通の利便性に加え、JR東北本線須賀川駅、東には福島空港を要するなど非常に交通利便性に恵まれた環境にある。
- 国道4号とJR東北本線によって市街地が東西に分断されており、東側には宿場町の時代から栄えてきた旧市街地として、行政機能や商業店舗などまちの機能がコンパクトに集約されており、西側には河川改修や区画整理事業による新興市街地として広域交流施設の文化センター、アリーナ、温泉施設、都市公園などが配置されている。
- 本計画区域である「須賀川駅西地区」を含む須賀川駅周辺は、奈良・平安時代に石背国として発展し、その栄華を後世に伝える国指定史跡「上人壇麁寺跡」があり、今後の史跡公園化を検討している。
- 駅東地区は、古くから商業店舗が立ち並び、かつてはヒトやモノが行き来する駅前のにぎやかな街を形成していたが、モータリゼーションの進展により次第に郊外の大型商業施設に人が流れてしまう状況となっている。
- 駅東地区において、良質な住宅地の創出を目的に昭和58年から平成28年まで土地区画整理事業を実施し、人口の集約化を図るなど一定の効果を発揮している。
- JR須賀川駅に併設する市のコミュニティ施設内に、本市観光の情報発信を目的として観光案内所を設置している。また、市民や駅利用者の自由な交流や活動を促進するためにコミュニティラウンジを配置している。
- 須賀川駅西地区は、これまで地区の整備計画がなかったことから、無秩序な民間開発による住宅の造成が進行している。
- 地域の自治活動を行う場合において、駅東地区にはそのスペースがないことから、地域住民及びまちづくり団体から駅西地区の利活用を求められている。
- JR須賀川駅は、出入り口が東側のみであるため、既存の駅前広場及び周辺道路は、路線バスやタクシー、駅利用者の送迎車両により道路機能が停止状態となり、車両の接触事故が頻繁に発生している。また、通勤通学のピークの時間帯には交通が阻害され、公共交通がマヒすることなどで公共交通利用者の利便性低下や利用者の減少を招く要因の一つとなっている。

### 課題

- 地区の歴史的シンボルである国指定史跡「上人壇麁寺跡」へアクセスするための幹線道路が整備されていないこと、また、公共交通機関を利用したの来訪が不便であることから、その魅力を十分に活用できていない。
- 従前の使用目的のために配置されたコミュニティ施設の一部をそのまま観光案内所として使用しているため、配置場所が出入り口から離れているなどの構造的な制約から、効果的なPR活動を図れていない。
- 同施設内に配置しているコミュニティラウンジは、現状としては主に鉄道利用者の待合スペースとしてしか利用されておらず、当初の目的が達成されていない状況である。
- 駅西地区は、ヒトと車の通行が分離できていない狭小で危険な道路が多く、その結果として飲食店や商店などの商業店舗の立地が少ない地区となっている。
- 須賀川駅前地区の自治会組織は、JR東北本線の軌道敷を境に東西に分断されていることから、地域交流の希薄化が課題となっている。
- 駅西地区には、駅東地区の交通混雑を緩和する駅前広場が整備されていないほか、地域住民や駅利用者が安全安心及び快適に生活できる道路や街区公園などのインフラ環境が整備されていない。
- また、本市の市街地については、一級河川阿武隈川や釈迦堂川の改修と共に形成され共に発展してきたが、近年は異常気象により、河川の越水や内水氾濫等が多数発生しており、早期の防災・減災対策が求められている。

### 将来ビジョン(中長期)

- 須賀川市第8次総合計画において、地区の歴史的シンボルである国指定史跡の上人壇麁寺跡を史跡公園として整備し、地域の魅力向上と市内外住民の歴史学習や憩いの場として活用し、交流人口の増加を図ることを検討している。
- 次世代に引き継がれるまちづくりを促進するため、駅を利用する高校生や本市と包括的な連携協定を締結する福島大学、その他まちづくり会社が市と連携し、魅力的な都市の創造に関して検討する仕組みづくりを構築する。
- 東西連絡自由通路及び駅西広場の整備による交通結節点の強化を図ることにより、民間投資による魅力的な商業店舗の立地、宅地造成による人口密度の上昇、地域活動の活発化による交流人口の増加とにぎわい創出を図り、人が集う駅西地区を創造する。
- 今後も頻発・激甚化する自然災害に対応するため、関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった防災・減災対策を講じることにより、安全安心な住環境整備を促進する。

**都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

**都市機能配置の考え方**

- 本市では、宅地造成したエリアを中心とした既存の市街地は非常にコンパクトに形成されており、集約できる区域が少なく、まちづくりが国道4号や東北本線を境に、東側の中心地と西側の新興市街地に分けて展開されており、それぞれの特色を生かした計画を実施する。
- 現在まで、本市が行ってきた様々な施策や事業で、市街地内の都市施設は充足していることから、今後は、現在の都市施設のストックを有効に利用するため、東西の2地区で施設の互換性や利活用が促進される計画を実施する。
- コンパクト化(人口密度の維持や生活利便施設の配置等)と相まって、市が良好な住環境を整備し、人工密度が維持される東西の2地区や交通結節点(須賀川駅等)、交流拠点(市役所、市民交流センター等)を効率かつ効果的に結ぶ公共交通ネットワークを形成する。

**都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方**

- 本地区は、駅周辺地区として「都市機能誘導区域」に位置付けられており、公共交通が便利で都市機能を備えた地区を目標としている。
- 須賀川駅は、バスや鉄道などの結節点であり、交通利便性に優れた地区であり、市外からの来訪者を迎える市の玄関口として、必要な施設整備を行い、駅周辺は効率の良い交通環境を推進する。
- 鉄道で分断された東西地区をつなぐ自由連絡通路や国指定史跡の上人壇廃寺跡と連携して、駅西地区の賑わいや魅力を創出する。
- 区画整理で整備された駅東地区に加え、駅西地区の生活利便性の向上を図る整備を行うことで定住を促し、徒歩で生活可能な区域を整備する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

**目標を定量化する指標**

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内人口	人	計画地区内の定住人口	地区内人口の増加を、地域の魅力向上及び住環境整備の成果指標とする。	618	H29	680	R5
地域活動団体の年間イベント開催数	回/年	地域活動団体の年間イベント開催数	地域活動団体のイベント開催数を、東西自由通路及び駅西広場の整備によるにぎわい創出の成果指標とする。	0	H29	4	R5
地区内に立地する店舗数	件	地区内に立地する店舗数	地域の魅力向上及び住環境の整備により地区内に立地する店舗数を、地域が稼ぐ力及び持続可能なまちの成果指標とする。	7	H29	10	R5
避難するための時間	分	内水氾濫の発生から被害発生までの避難時間	雨水貯留施設を整備することで、確保することが出来る避難時間を成果指標とする。	0	R1	80	R5
防災訓練の回数	回/年	防災訓練の回数	地域住民の自主防災組織における訓練の回数を成果指標とする。	0	R1	2	R5

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>整備方針1</b> 地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須賀川駅の東西に分かれた地域活動及び駅東側の旧市街地と西側の新興市街地を有機的につなぐ、東西自由連絡通路を整備する。</li> <li>・駅に併設するコミュニティ施設のリノベーションを行い、誰もが利用しやすい魅力的なコミュニティスペースと情報を発信する観光交流センターを整備する。</li> <li>・国指定史跡「上人壇麁寺跡」を他にはない特色ある地域資源として位置づけ、新しい駅西地区の観光資源としてボランティアガイドの育成を図り、交流人口の増加を図る。</li> <li>・自治会行事及びまちづくり団体によるイベント開催において、ノウハウを有するまちづくり会社に委託し人材育成の支援を行う。</li> <li>・駅舎併設のコミュニティ施設内に整備する観光交流センター内に観光ボランティアガイドを常駐させ、観光資源の発信を支援する。また、同施設内に商業店舗スペースを配置し、運営を障がい者就労施設が行うことにより、労働の場を提供する。</li> </ul>	<p>●基幹事業 ①東西自由連絡通路の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ②観光交流センター・地域交流センターの整備(基幹事業/既存建造物活用事業)</p> <p>●提案事業 ①駅前SIMCITY事業 駅周辺の稼ぐ力の創出(まちづくり活動推進事業)</p> <p>●関連事業 ①駅橋上化整備事業(市単独) ②東西幹線道路の整備(社総金)</p>
<p><b>整備方針2</b> 地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民やまちづくり団体が、地域行事やまちづくりイベントを行う場として駅前広場を整備する。</li> <li>・次世代を担う高校生のまちづくりへの積極的な参画推進等を目的に、市と高校生、包括連携協定を結ぶ福島大学の学生とともに、次世代に継承できる持続可能なまちづくりの方策と市が保有する土地の利活用を検討する。</li> <li>・駅前広場に花壇を整備し、そのデザインから維持管理までを農業高校生が実施することで、花壇の維持管理費の削減を図るとともに、地域住民とも連携し世代間交流や生きがいを創出する。</li> </ul>	<p>●基幹事業 ①東西自由連絡通路の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ②駅前広場の整備(基幹事業/地域生活基盤施設)</p> <p>●提案事業 ①駅前SIMCITY事業 駅周辺の稼ぐ力の創出(まちづくり活動推進事業)</p>
<p><b>整備方針3</b> 安全安心で快適に生活できる住環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅東側に集中する交通混雑の解消及び公共交通機関機能の正常化のほか、駅西地区への車両分散を目的に、東西自由連絡通路及び駅前広場を整備する。</li> <li>・駅利用者の利便性向上を図るため、利用しやすい駐車場を整備する。</li> <li>・本計画区域に居住する住民及び駅利用者が、安全安心に通行できることを目的として、道路新設(4路線)、拡幅(1路線)等のインフラ整備を行う。</li> <li>・地域住民や駅利用者が安らぎを求めて憩うことができる、街区公園を整備する。</li> <li>・地区の児童や生徒、高齢者等の交通弱者が安全安心に生活できる環境整備を目的に、地域住民が自分たちの住む道路や水路などの危険個所の安全点検を実施するための支援を行う。</li> <li>・浸水被害の軽減と避難時間を確保するため、既存の都市公園に雨水貯留施設を整備し、安全かつ迅速な避難誘導が行えるよう、避難路と高台避難地を整備する。</li> </ul>	<p>●基幹事業 ①東西自由連絡通路の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ②駅前広場の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ③西川中央公園の防災公園整備(基幹事業/公園)</p> <p>●提案事業 ①駅前SIMCITY事業 駅周辺の稼ぐ力の創出(まちづくり活動推進事業) ②防災意識向上のため、防災訓練の実施やパンフレットを作成する(まちづくり活動推進事業)</p>
<p><b>その他</b></p>	
<p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 事業終了後においても、将来ビジョンの達成に向け中・長期の目標達成を目指し、都市再生整備計画事業の効果を最大限に高めるようなまちづくり活動を継続して展開して行く。なお、今後のまちづくり活動に結びつくまちづくり団体の設立を期待する。 防災公園整備後には、地域住民による自主防災組織により、定期的な防災訓練を実施する。</p>	



須賀川駅西 地区(福島県須賀川市)	面積	30.0 ha	区域	須賀川市 中山の一部外
-------------------	----	---------	----	-------------



目標 大目標:「人が集い、歴史と共存するにぎわいと魅力ある駅前空間の創出」 目標:地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信 目標:地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造 目標:安全安心で快適に生活できる住環境の整備	代表的な 指標	地区内人口の増加 (人)	618	(29年度)	→	680	(R5年度)
		地域活動団体のイベント数の増加 (回/年)	0	(29年度)	→	4	(R5年度)
		地区内店舗の増加 (件)	7	(29年度)	→	10	(R5年度)
		内水氾濫の発生から被害発生までの避難するための時間 (分)	0	(R1年度)	→	80	(R5年度)
		防災訓練の回数 (回/年)	0	(R1年度)	→	2	(R5年度)

